

令和6年度

第1回 豊見城市地域公共交通協議会

【豊見城市地域公共交通計画】

-
- 3-1. 豊見城市の交通施策の取組みについて
(交通基本計画、総合交通戦略)
 - 3-2. 新しい公共交通システムの導入について
(Zippar)
 - 3-3. 自動運転バスの実証実験について
 - 3-4. 豊見城地域公共交通計画（改訂案）について
-

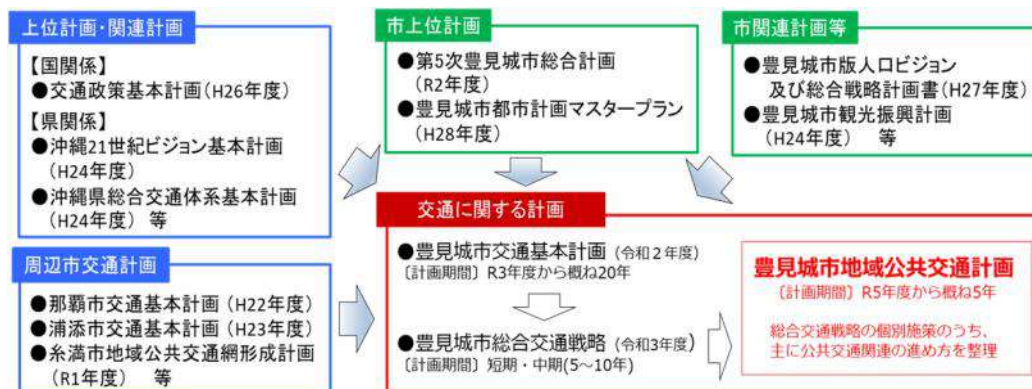
令和6年9月4日
豊見城市 都市計画課

3-1. 豊見城市の交通施策の取組みについて

(1) 交通施策の取組みについて

- 「地域公共交通計画」は、本市の交通に関する計画として、国・県・本市及び周辺市町の上位・関連計画と連携を図り、「総合交通戦略」に掲げる公共交通に関連した施策を推進
- 令和5年度から令和9年度を目標年次として、各施策を推進

①計画の位置づけ



【市関連計画】について

交通政策は、まちづくり、観光、交通弱者(学生、高齢者、福祉など)の施策目標と密接な関係あり。

● 豊見城市観光振興計画(令和6年5月策定)

⇒⑧環境にも配慮した交通インフラの充実(①公共交通機関の充実、②エコドライブの推進、③レンタサイクルの導入)

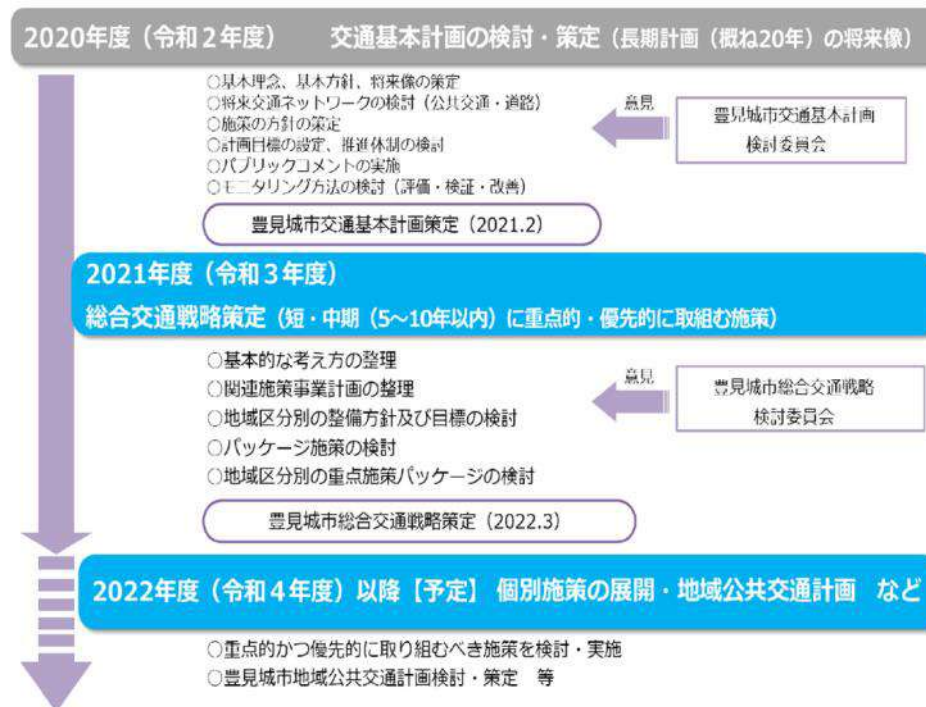
● 豊見城市高齢者保健福祉計画(第9期)(令和6年6月策定)

⇒(3)ひとにやさしいまちづくりの推進(①高齢者の移動支援の充実)

● 豊見城市障害者計画及び第7期障害者福祉計画・第3期障害児福祉計画(令和6年6月策定)

⇒7-1-2利用しやすい公共交通機関の整備(①障害者に配慮した移動手段の検討)

②目標年次



■ 豊見城市地域公共交通計画
目標年次：2028年(令和9年)
令和5年からの約5年間

3-1. 豊見城市の交通施策の取組みについて

(2) 交通施策の取組みについて

凡例： → 検討 → 実施 → 推奨 ※破線は必要

基本方針	施策	個別施策	取組内容	整備スケジュール（イメージ）				
				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
2. 誰もが使いやすい公共交通ネットワークの形成	新しい公共交通システムの導入	① 総合交通戦略【No. 4】	LRT、モノレールなど基幹公共交通の導入検討の推進	→	→	→	→	→
	路線バスの利用環境の拡充	② 総合交通戦略【No. 5】	公共交通の需要が期待される市東部の利便性向上	→	→	→	→	→
		③ 総合交通戦略【No. 6】	豊見城市内一周バス（105 番）のルート検証・見直し	→	→	→	→	→
			バス乗降データの取得・分析推奨	→	→	→	→	→
			公共施設やコンビニエンスストア等と連携したバス待ちスペースの設置	→	→	→	→	→
			既存のバスナビアプリの利用促進のための PR	→	→	→	→	→
			バス運行関連情報のオープンデータ化への取組推奨	→	→	→	→	→
	多様なフィーダー交通網の構築	④ 総合交通戦略【No. 7】	ラストワンマイル交通の導入検討	→	→	→	→	→
			グリーンスローモビリティの導入検討	→	→	→	→	→
			シェアサイクル等の利用促進	→	→	→	→	→
	交通結節点の整備	⑤ 総合交通戦略【No. 8】	豊見城市役所 道の駅豊崎周辺 真玉橋、名嘉地、豊見城 IC	→	→	→	→	→
	MaaS をはじめとする新たなモビリティサービスの活用	⑥ 総合交通戦略【No. 9】	現金から交通系 IC カード等への転換を促進	→	→	→	→	→
			MaaS サービスの活用検討	→	→	→	→	→
			タクシーとバスを組み合わせた割引検討	→	→	→	→	→
4. クルマに頼り過ぎないライフスタイルへの転換	モビリティマネジメント(MM)、交通需要マネジメント(TDM)の推進	⑦ 総合交通戦略【No. 17】	モビリティマネジメント (MM)	→	→	→	→	→
			通勤におけるモビリティマネジメント	→	→	→	→	→
			学校教育におけるモビリティマネジメント	→	→	→	→	→
			転入者を対象としたモビリティマネジメント	→	→	→	→	→
			公共交通利用に向けた周知啓発	→	→	→	→	→
			交通需要マネジメント (TDM)	→	→	→	→	→
			パーク＆ライド駐車場を活用した公共交通への転換	→	→	→	→	→
			ノーマイカーデーの実施	→	→	→	→	→
			エコ通勤の推進	→	→	→	→	→

3-1. 豊見城市の交通施策の取組みについて

(3) 「豊見城市地域公共交通計画」の令和5年度の取組み

実施項目	実施内容
1. 先進事例及び近隣自治体の情報収集	県外及び県内における先進事例を収集し、各自治体における導入費用や国交省が示す補助メニューを整理
2. 総合交通戦略の個別施策推進支援	—
① ラストワンマイル	アンケート付タクシー割引クーポンにより、ラストワンマイル交通の需要を調査し、利用特性等を把握するとともに、予約時等の課題について整理
② 市内一周線利用実態調査 ③ OKICAカードデータ分析	国勢調査結果、OKICAデータ、スマートフォンGPSデータを活用して地域間の移動実態を分析し、バス利用がみこまれる地域を整理
④ 105番の位置づけ再検討	- 豊見城市内一周線（105番）の利用者数の更新 - 豊見城市内一周線（105番）の位置づけを追加
⑤ バス体験	- 豊崎小学校（4年生 4クラス）を対象に、バスの乗り方教室を実施 - 公共交通の必要性（座学）、バス乗車体験を実施
⑥ P&Rの取組みの推進	- P&Rニーズ把握を目的としたアンケート調査を実施 - 利用意向、料金、希望位置等について整理

3-2. 新しい公共交通システムの導入について

(1) 自走式ロープウェイ (Zippar)

- 令和5年度において、「まちづくり推進に係る連携協力に関する協定書」をZip社と締結
- 令和6年度においては概略のルート検討、需要及び概算コストの試算を予定

①計画の位置づけ

基本方針2. 誰もが使いやすい公共交通ネットワークの形成

施策: 新しい公共交通システムの導入

1. LRT、モノレールなど基幹公共交通の導入検討の推進

<取組内容>

- 沖縄県や隣接する那覇市、糸満市などの関係機関と連携し、本市に適した基幹軸として LRT^{※1} やモノレール、基幹バス^{※2}、Zippar^{※3} などの新たな公共交通システム導入検討を推進します。

※1 低床式車両 (LRV) の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する軌道系交通システム。

※2 鉄道と比べても遜色のない輸送力、利便性等を兼ね備え、都市部の基幹的な交通を担う目的で、拠点・主要施設間を結ぶための交通手段として設置されたバス路線。

※3 Zip Infrastructure 社 (以下 Zip 社) が提供する自走式ロープウェイシステム。豊見城市は Zip 社と令和5年10月に「まちづくりの推進に係る連携協力に関する協定書」を締結した。

Zip Infrastructure 社 (以下 Zip 社) が提供する自走式ロープウェイシステム。



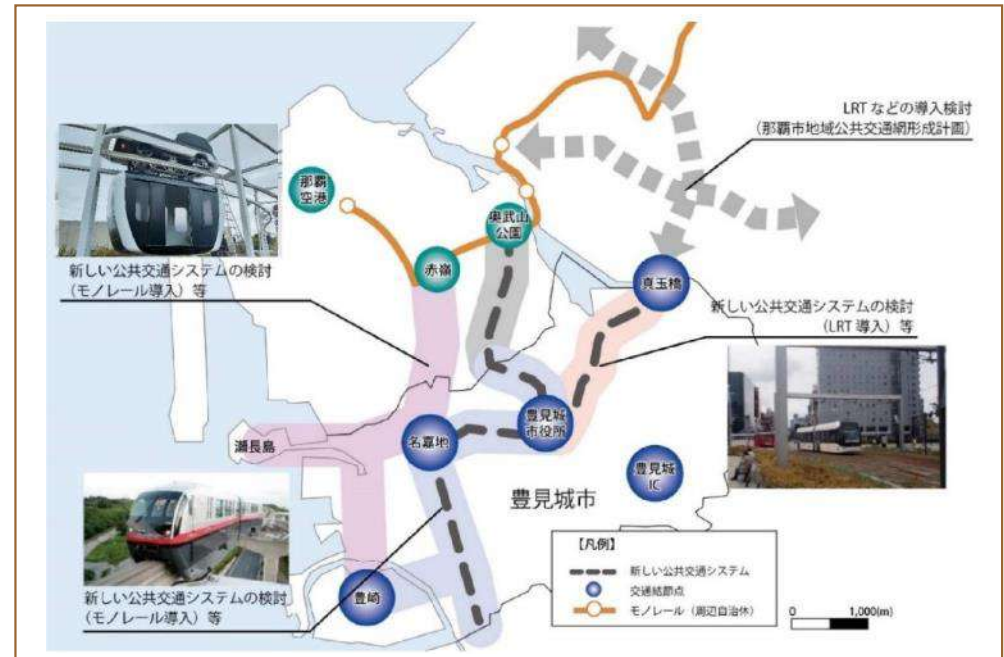
新たな公共交通システム (自走式ロープウェイ)



出典: 豊見城市 HP

図 74 自走式ロープウェイシステム (Zippar)

②イメージ図



③スケジュール

凡例: → 検討 → 実施 → 推奨 * 破線は必要に応じて検討・実施

令和6年度 2024	令和7年度 2025	令和8年度 2026	令和9年度 2027
適宜、情報収集、調整、検討を実施【LRT,モノレール、基幹バス】			
導入の可能性検討【Zippar】			

3-3. 自動運転バスの実証実験について

(1) 自動運転バス社会実験の概要

- 令和6年5月において、「自動運転バスに関する包括連携協定」を締結
- 地域住民及び観光客への長期的に安定したバスサービス提供を目指す

①自動運転バス社会実験の概要

背景・目的

- 現行運行する豊見城市内一周線バス（105番）において自動運転バスレベル4による運行を実現し、市内における公共交通手段の確保や、公共交通の利便性向上による地域活性化を目指す

実証概要

- 市内一周バス（105番）の路線の一部を自動運転に置き換え、2025年度中に「豊崎美らSUNビーチ前～翁長北」の直線部分をレベル4で走行することを目指した実証実験を2024年度の公募で行うことを想定

運行概要

- 実証車両はTIERIV Minibusを1台活用し、客席は15人
- 実証期間は運賃無料で、常にドライバー・保安員を社内に1名ずつ配置し、常時遠隔監視を行う
- 保栄茂（びん）から豊見城南高校までの一部区間は、急勾配の坂のため手動走行となる

②実験の周知チラシイメージ

無料 自動運転バスの実証運行開始

沖縄県初！生活路線での自動運転！

平日・土曜・日曜 全て運行

運行期間 10月8日(火)～11月1日(金)

詳細・予約はこちら

完全自動運転 レベル4 本実証では自動走行しますが、運転手と保安員が常に乗務しているので安心・安全を最優先に運行します。

実証運行ルート&ダイヤ

105番の一部を1周約1時間ほどかけて走行します

自動運転バス走行ルート

105番線走行ルート

1. イーアス豊崎
2. 道の駅豊崎
3. アウトレット
4. 豊崎入口
5. 翁長北
6. 豊見城南高校前
7. 翁長
8. 保栄茂
9. 保栄茂入口
10. 武富
11. 平良
12. 中央公民館前
13. 郵便局前
14. 市役所前
15. 中央病院前
16. 平和台団地
17. 我那覇
18. 伊良波
19. 座安
20. 与根
21. 翁長北
22. 豊崎入口
23. アウトレット
24. 道の駅豊崎
25. イーアス豊崎

イーアス豊崎発着で、1日5便の運行
始発は10時頃、最終便は15時頃の予定です

協賛
豊見城市観光協会 / イーアス豊崎
アウトレットモールあしげな
豊見城市商工会 / JAおきなわ豊見城支店
沖縄カンダ株式会社 / FMとよみ

豊見城市 自動運転

10/8(火)～11/1(金)の期間、自動運転バスをご利用のお客様で、簡単なアンケートにご回答いただいた方には自動運転期間限定缶バッジをプレゼント！

3-3. 自動運転バスの実証実験について

(2) 実証実験に向けた検討

- 豊見城市市内一周線バス（105番）の一部を対象路線として実施を予定
- 一部の区間においては手動走行により実施を予定

①実施時期

■令和6年10月8日（火）～令和6年11月1日（金）

*令和6年10月7日（月）：関係者セレモニー

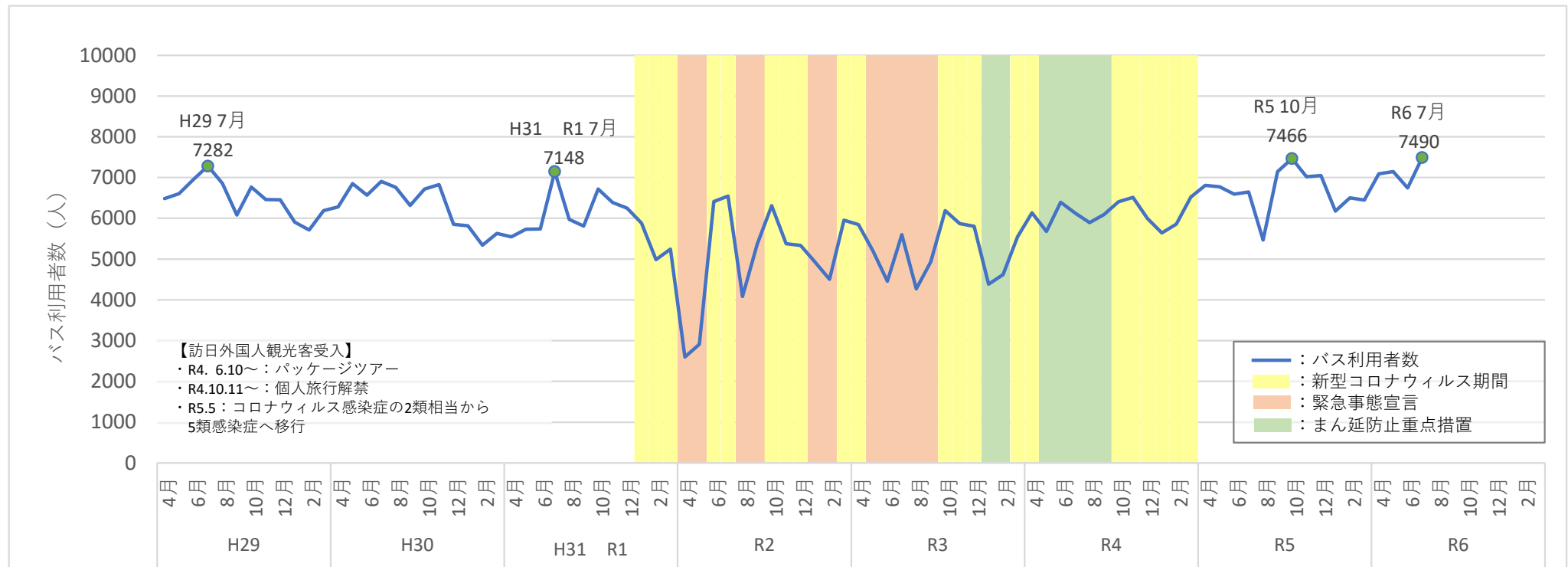
②実証実験運行ルート

一部の停車バス停（25箇所で停車）	運行ルート																								
<table border="1"> <tr><td>1</td><td>イーアス沖縄豊崎（始発）</td></tr> <tr><td>2</td><td>道の駅豊崎</td></tr> <tr><td>3</td><td>翁長</td></tr> <tr><td>4</td><td>保栄茂</td></tr> <tr><td>5</td><td>平良</td></tr> <tr><td>6</td><td>郵便局前</td></tr> <tr><td>7</td><td>市役所前</td></tr> <tr><td>8</td><td>名嘉地</td></tr> <tr><td>9</td><td>伊良波</td></tr> <tr><td>10</td><td>座安</td></tr> <tr><td>11</td><td>あしびなー前</td></tr> <tr><td>12</td><td>イーアス沖縄豊崎（終着）</td></tr> </table>	1	イーアス沖縄豊崎（始発）	2	道の駅豊崎	3	翁長	4	保栄茂	5	平良	6	郵便局前	7	市役所前	8	名嘉地	9	伊良波	10	座安	11	あしびなー前	12	イーアス沖縄豊崎（終着）	バスマップ掲載路線 105番バス専用道路 バス専用道路 バス専用道路 1. 始発：イーアス沖縄豊崎バス停（仮バス停） 2. 道の駅豊崎情報センターバス停 豊見城市内一周バス 105番運行業者 道路バス交通 豊見城市役所 098-851-4384 このルートとなり、県道7号線の一部で重複運行します。 時刻表は裏面です。 バスは現在位置がリアルタイムで確認できます。 095のNAVI Okinawa バス 03サンクションシステム
1	イーアス沖縄豊崎（始発）																								
2	道の駅豊崎																								
3	翁長																								
4	保栄茂																								
5	平良																								
6	郵便局前																								
7	市役所前																								
8	名嘉地																								
9	伊良波																								
10	座安																								
11	あしびなー前																								
12	イーアス沖縄豊崎（終着）																								

3-4. 豊見城市地域公共交通計画（改訂案）について

(1) 豊見城市市内一周線バス（105番）

- 平成31年～令和3年にかけては新型コロナの影響から利用者が一旦減少、令和4年は再度利用者が増加
- 令和6年7月時点の月平均7,121人とコロナ以前よりも多いペースでの利用（R6.7が最大値）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		合計	平均
R6	7,094	7,148	6,750	7,490										28,482	7,121
R5	6,806	6,774	6,592	6,646	5,470	7,144	7,466	7,018	7,048	6,176	6,504	6,448		80,092	6,674
R4	6,138	5,675	6,396	6,130	5,892	6,094	6,404	6,512	5,996	5,644	5,856	6,518		73,255	6,105
R3	5,847	5,200	4,458	5,600	4,272	4,932	6,192	5,870	5,802	4,382	4,622	5,546		62,723	5,227
R2	2,600	2,908	6,414	6,546	4,082	5,364	6,308	5,376	5,334	4,924	4,506	5,952		60,314	5,026
H31.R1	5,548	5,730	5,736	7,148	5,972	5,810	6,720	6,388	6,248	5,882	4,985	5,246		71,413	5,951
H30	6,278	6,850	6,566	6,905	6,760	6,314	6,716	6,826	5,854	5,816	5,338	5,632		75,855	6,321
H29	6,486	6,602	6,952	7,282	6,858	6,078	6,766	6,460	6,456	5,906	5,714	6,188		77,748	6,479

H31.4ルート変更

新型コロナウイルス期間

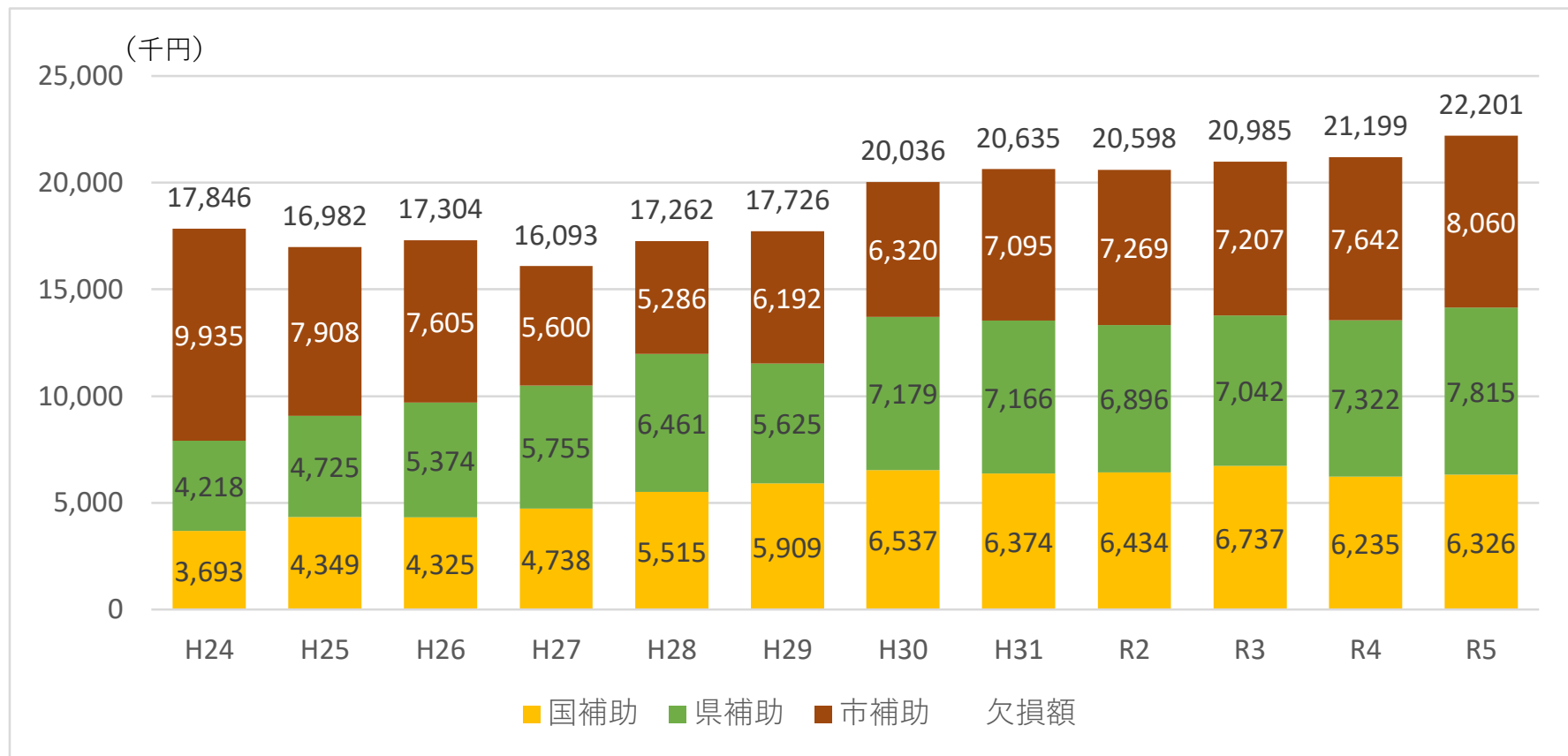
緊急事態宣言

まん延防止重点措置

3-4. 豊見城市地域公共交通計画（改訂案）について

(2) 補助金の交付及び市の負担状況

- 補助金額の総額は平成31年4月のルート変更後に若干増加
- 国及び県の補助増額によって市の負担はルート変更前と同程度で推移



3-4. 豊見城市地域公共交通計画（改訂案）について

(3) 令和5年度の地域公共交通計画の見直し

- 実施施策の取組み内容について、「LRT,モノレールなど基幹公共交通の導入検討の推進」、「公共交通ネットワークの形成に向けた取組みの推進」に係るスケジュール及び実施主体の追加・修正

4.4 実施施策

「豊見城市総合交通戦略」に位置付けられた17の個別施策のうち、7つの個別施策について計画を策定します。

凡例：→ 検討 → 実施 → 推奨 ※破線は必要に応じて検討・実施 ◎ 主担当 ○ 担当

基本方針	施策	個別施策	取組内容	整備スケジュール（イメージ）					実施主体					
				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	国	県	市	交通管理者	交通事業者	企業・団体
2 誰もが使いやすい公共交通ネットワークの形成	新しい公共交通システムの導入	① 総合交通戦略【No.4】 LRT、モノレールなど基幹公共交通の導入検討の推進 (自動運転・Zippar)	適宜、情報収集、調整、検討を実施 (LRT、モノレール、基幹バス)	→	→	→	→	→	○	◎	◎	○	○	○
			導入の可能性検討 (Zippar)	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
	路線バスの利用環境の拡充	② 総合交通戦略【No.5】 公共交通ネットワークの形成に向けた取組みの推進	公共交通の需要が期待される市東部の利便性向上	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			豊見城市内一周バス (105番) のルート検証・見直し	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
		③ 総合交通戦略【No.6】 公共交通の利用促進に向けた取組みの推進	豊見城市内一周バス (105番) における自動運転実装化	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			バス乗降データの取得・分析推奨	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
	多様なフィーダー交通網の構築	④ 総合交通戦略【No.7】 ラストワンマイルにおける交通手段の導入検討の推進	公共施設やコンビニエンスストア等と連携したバス待ちスペースの設置	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			既存のバスナビアプリの利用促進のためのPR	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			バス運行関連情報のオープンデータ化への取組推奨	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
	交通結節点の整備	⑤ 総合交通戦略【No.8】 交通結節点の整備の推進	ラストワンマイル交通の導入検討	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			グリーンスローモビリティの導入検討	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
	MaaSをはじめとする新たなモビリティサービスの活用	⑥ 総合交通戦略【No.9】 MaaSをはじめとする新たなモビリティサービスの活用の推進	シェアサイクル等の利用促進	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			現金から交通系ICカード等への転換を促進	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
4 クルマに頼り過ぎないライフスタイルへの転換	モビリティマネジメント(MM)、交通需要マネジメント(TDM)の推進	⑦ 総合交通戦略【No.17】 モビリティマネジメント(MM)、交通需要マネジメント(TDM)の推進	MaaSサービスの活用検討	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			タクシーとバスを組み合わせた割引検討	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			モビリティマネジメント(MM)	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			通勤におけるモビリティマネジメント	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			学校教育におけるモビリティマネジメント	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			転入者を対象としたモビリティマネジメント	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			公共交通利用に向けた周知啓発	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			交通需要マネジメント(TDM)	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			パーク＆ライド駐車場を活用した公共交通への転換	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			ノーマイカーデーの実施	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎
			エコ通勤の推進	→	→	→	→	→	○	○	◎	○	◎	◎

3-4. 豊見城市地域公共交通計画（改訂案）について

(3) 令和5年度の地域公共交通計画の見直し

- 令和6年5月に策定した沖縄県地域公共交通計画において、豊見城市内一周線（105番）が地域公共交通確保維持改善事業の対象として示されている
- 令和6年度において、将来も安定的な公共交通の提供を図るための自動運転実証実験を実施
- 「地域公共交通計画」豊見城市内一周線（105番）の位置づけにおいて自動運転を追加修正

① 沖縄県地域公共交通計画（抜粋）

(2) 県民・事業者・行政の全てが経済的にも持続可能な交通社会

施策 23 バス路線確保・維持のための事業推進と新たな仕組みの検討



実施主体・スケジュール（全ての施策と連携）

施策・事業	実施主体	R6	R7	R8	R9	R10~
施策 23 バス路線確保・維持のための事業推進と新たな仕組みの検討						
23-1 バス路線確保・維持事業の推進	県、市町村、国、バス事業者（沖縄県生活交通確保維持協議会）	実施				
23-2 持続可能な新たな仕組みの検討及び公共交通に必要な財源確保	県、市町村、国、バス事業者	検討・実施				

② 自動運転の位置づけ

施策 新しい公共交通システムの導入

1
No.4

LRT、モノレールなど基幹公共交通の導入検討の推進

（自動運転、Zipcar）

<取組内容>

- 沖縄県と隣接する那覇市、糸満市などの関係機関と連携し、本市に適した基幹軸として LRT^{※1} やモノレール、基幹バス^{※2}、自動運転^{※3}、Zipcar^{※4} などの新たな公共交通システム導入検討を推進します。

- ※1 低床式車両(LRV)の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する軌道系交通システム。
- ※2 鉄道と比べても遜色のない輸送力、利便性等を兼ね備え、都市部の基幹的な交通を担う目的で、拠点・主要施設間を結ぶための交通手段として設置されたバス路線。
- ※3 豊見城市内一周線（105番）の自動運転（レベル4）を目指し、豊見城市は第一交通産業株式会社、株式会社電脳交通、株式会社ティアフォー、日本電気株式会社と令和6年5月に自動運転バスに関する包括協定を締結した。
- ※4 Zip Infrastructure 社（以下 Zip 社）が提供する自走式ロープウェイシステム。豊見城市は Zip 社と令和5年10月に「まちづくりの推進に係る連携協力に関する協定書」を締結し、令和6年度より、「沖縄試行特別推進交付金」を活用し、本市や西海岸地域の交通渋滞解消のため、新たな公共交通システム（自動式ロープウェイシステム）の導入に向けた検討調査を実施。

豊見城市内一周線バス（105番）において自動運転バスレベル4による運行を実現し、市内における公共交通手段の確保や、公共交通の利便性向上による地域活性化を目指す。



図 73 自動運転バスシステム

(3) 令和5年度の地域公共交通計画の見直し

- 「公共交通ネットワークの形成に向けた取組みの推進」へ豊見城市内一周バス（105番）の自動運転に向けた目的及び、レベル4モビリティ・地域コミッティの組織構成を追加
- 令和6年10月の自動運転実証運行に合わせスケジュールへも自動運転化を追加

③自動運転導入の目的

豊見城市内一周バス（105番）の自動運転化

- 現在、運行する「豊見城市内一周線（105番）」において、自動運転バス「レベル4」による通常運行を実現し、学生や高齢者、障がい者など、だれもが使いやすい公共交通の利用者増加や利便性向上による地域活性化をめざします。
- 自動運転バスを活用しながら、将来的に市東部への移動ニーズへ対応し、特に交通弱者である学生や高齢者などの利便性向上を図ります。
- 自動運転バスの導入により、市内重要スポットや、市民利用が多いエリア及び場所などへスムーズに移動できるよう利便性向上を図ります。
- 将来的に、自動運転バスと多様な交通手段を有機的に接続し、さらなる公共交通の利便性向上を図り、公共交通への転換や市内渋滞の解消を目指します。



図 78 自動運転バス導入による構想イメージ

④地域コミッティ会議及びスケジュールの変更

- 本市内を運行する市内一周バスの自動運転（レベル4）の運行を目指し、関係行政機関及び事業者で組織する「レベル4モビリティ・地域コミッティ会議」令和6年度より組織。
- 地域の受容性醸成を図りつつ手続きの透明性・公平性を確保し、レベル4自動運転サービスの実現を加速する。



図 78 レベル4モビリティ・地域コミッティの組織構成

バス乗降データの取得・分析推奨

- 路線バス車両への乗降センサー設置等により、恒常的に乗降者数データを取得し、施策の効果の確認、再編時の検討材料として活用が期待されます。

